謡諧之秘記

へ 5
4466

門 へ5
號 4466
巻

昭和九年十月八日 購求

4466

泥潭傳といふ事世に聞こえ多し予年
来一道ふ修ひ之事力を尽す事神ふ
祷回縁を尋ねて付き始めて道事を
いひ教へたれば其泥潭ハ師とする
人ゐ人あり師として泥潭ハ
成就ハ何日ハ唯会ふ事を云ふ事
ハ何とぞ成就の和ふ出来
ぬ事ハ御筆にあるといひ

又ハ[illegible]て、定家卿ノ云ハく
あり芳摩ノ石無沙ま〻自然全く
御筆ニ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]の所ノ
意なるべし　尚一流ノ[illegible]ノ[illegible]
書ニ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ　師小源敏ノ一
巻源物なる壹上ノ面ニ各〻世ニ[illegible]
はノ和歌　泥洛ニ日和[illegible]

口受法ト云ふすして宗匠と呼ぶ
人数いくらと云ふ法ニ[illegible]
[illegible]式春　意ハ不入　神祇　歌数ハ発句
月　雪　霞　花　ほとゝぎす　名所
世ハ表十句ニ知ル人多し　裏の法ニ[illegible]
ウラハ古法二句ノ秘　此二句ハ意を入る
今頃尾ノ作ノ表六句裏六句すべ自然
古法ノ表裏ノ数に叶ひ[illegible]の天地ノ

三ツ物ノ事

天地人ノ三ツノ象旦ヲ天ニ象ドリ編ヲ地理ニ象リ中ニ人ニ象ルモノ也ト云ヘドモ自体アルベキ象旦ニ三ツ物ハ
ノフトコロニ之ノ数大ノ形刑場ヲ作ルノ術場ヲ

歌仙二十六ノ数ハ

アナニエヤニエヤウニシヨトコニアヒヌ　十八
アナニエヤニエヤウニシヨトメニアヒヌ　十八

百韻ト以ル事

百句トナルモ百韻百韻ナルモ百韻ヲ百韻ト云ヒ百韻ト不思義
泥沼ノ大事也世数詩ヲ以テ割数
数ヲ言月花ノ用新・明ノ

表八句　裏十四句之裏十六句ト数ヲ定ル
無記之律詩絡句ノ姿ノ数之伝ヲ書シ数
起　清　轉　合　四句ノ内ヲ句メヨリ

紀 清濤 合 月ノ庭 樹ノ陽

裏ノ月花の庭等ニハ紀ノ樹の下ニ樹の下ニ
ハ清濤再懸耳乞石の傍ニ韻の字添ル

祈禱 清濤の事 口文

謝ハ御也 カヒシハイハヒシ 別傳 委 伝て左ハ云ふ れの字用て
ハ云ふ所と宗祇文庫書に委細あり

清浦 石審ハ事ハ先以石金史

連歌に所ハ所の六義

風 ハ云ふ所と宗祇文庫書に委細あり

賦 ハ云ふ所と宗祇文庫書に委細あり

比 たとへ也 譬諭也

興 ハ云ふ所と宗祇文庫書に委細あり

雅 ハ云ふ所と宗祇文庫書に委細あり

頌 ハ云ふ所と宗祇文庫書に委細あり

十七字ノ下ニ不於業ニ云ふ

十八十九句ハ一字
二字入ル句ハ切字ノ如シ

夢想ノ事

終句ナルハ表六句一統愛恋ノ句ナルハ
表七句ナルベシ　百韻ノ初ハ一統ニ
賀ノ具ヲ表ス故ニ宜ト表九句同
一句ヒラ字ノ句ト愛恋ハ
ソレ〳〵ノ人名ヲ書ル事未練ノ作者ナリ定式ハ

千句満座ハ香ヲ焚故句ヒラ字ト
愛恋同意之

賦物ノ事　賦ノ字訣
愛ノ字訣

上賦ハ　山路ヲ何路ト云之
下賦ハ　山路ヲ何山ト云之
一字露形ハ　香ハ歌之
二字返音ハ　花ハ縄之
三字中略ハ　篝火ハ而之

四字ノ下略ハ　うをひす　抗也　ひろかなを通てをけ数不表てをとハれるくしし洲ひろくはる更

五字中之略ハ　杜若　肩之

三字ノ下略ハ　あやめハ　矢也

上賊下賊ノ外詞ニ　今しもうをひ市ニ

やといふを意秘也　志ゝぬ人の子ゆ之

切字ゝ事　助字也　必ずも切字ハ有れと一句

ノ始梅也志ゝす　切字ゝて始ゝ用し給の

詞也ゝゝ物ハ事ゝ也　如ニ為なを

世ノ答ノゝゝ如中ゝを　詞潜ノ如ニ

ハのゝ人世ニ侘人大ニ事ニて

一ゝとゝ一句を　段句ハ　たゝ句ハ　ゝを句をなゝと

まふ句を段句ノをれしゝ

中ニハ牛ふ句をゝと始ゝを

ゝ中ゝをノをゝれしなゝ

一ゝ句ハ　ゝ句ノ　ゝすゝふをゝ塔ゝ

孤ノをゝ扇ゝ　ゝ

元右の句ゝをフルツリと字を入ゝたゝうに

のゝとゝゝ事を思ゝを句をゝと中ゝハ

事ゝのゝゝ塔のゝゝんゝゝとゝゝ

まで〻世ふ伝受〻宣秘を伝のおさ〻字なくとも
法ら不性たこゝろとゝふをこゝゆと称すて為〻
松乃為ら為あらしめ為ときは月
何乃おさ〻かなし一秀一全に元て海に老ハ
のいと毛たるの〻和分乃五〻海徒人とすれハ
我大事秘を毛たいひちらし人の窮にする
こと法ゝ〻〻ゝ人若に教〻
一て糸を為ふ為〻編を万業を鑑ゝ五〻大秘

りハ為〻うもハ窮〻捨ゝハ為〻成ハ為〻

一弁三ノ韵字為ハ通仰乃ゝ和ゝて文字乃
ゝとのゝて為〻貞室流の用と為ゝ毛ゝ
者実乃為ゝ為ゝ世ゝて拾ゝ
一弁三一字韵字ゝて武ふ為ゝ為ゝ一字韵字ゝて
為〻
一を毛ゝを上たゝ〻ゝ以ゝ下にをゝ拾ゝ〻仰ゝ
二ゝとのをゝ〻ゝ云ゝて為ゝ一ゝゝゝゝ為ゝハ

[illegible]

一大廻切　[illegible]

[illegible]

一三段切　[illegible]

[illegible]

一三字切

[illegible]

梅ふる清香外清稼の句はなれとふんこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二字切三字切

一過去現在未来の三ハ

いろ毎ふ〳〵況之切字之〳〵[illegible]

未来ハ　[illegible]

一なれやい成就ふて母ふ

一神祇釋教恋大摺とり半行の注歌源

とゝの外に秘り事〳〵三世の中乃宗通秘考
ふ乃事秘を初〳〵に露法公伝〳〵ゝる外
他云なり〳〵ゝ〳〵ハ意外秘ひる神祇の神祇の
白に二白云〳〵ゝ紙二白云〳〵ゝ〳〵掛る未練〳〵
釈を日意之神祇と神祇と二白云〳〵意の伝乃
神祇格別や〳〵

一賦掛る事さ用〳〵法をあるとん用ゝ乃
連歌ハ二イ（彩法）ハリツクハとふやゝとゝけの白ゝう

習鶴ゝてう〳〵ふんの術儒なれハ賦の字を
やゝとたけとぶんゝて書とゝ〳〵ゝ後〳〵の法を雅用

黙テ墨ヲツケ 賦 日下武 賦 賦ナシ 武家法式ノ会 賦 武家法式ノ会 賦 不用

筒を事ハ日下とんふ心ひて事〳〵ゝとゝふ意
長法乃事なるゝ〳〵 紙物を命の懐紙乃
陽作りハ准〳〵ゝる事ゝて外にもつゝき
ゝ物なゝ賦ゝ訂ゝをゝふんゝてなる事
ゝ〳〵上古陽ゝ法事とふゝ物とゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

夢に　夢　に書く

廿四日夕　廿四夕との別字なり

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

千代能作者石清水能作者こうし　甲左　又想ふ
音こと猫を寸法に宗近寸法にすると一作源て
一家と想代と云ふ心と想代と書てすると
作と又寸法宗　想代と云て一作を作ると云ふ
作も石若しと云ふ時は作をきふ
なる作かと云ふ作ふ作の姿ひ　玉柳
いとこし　一角なる　一角なる　一角なる
作ひつけるなり　新宅　宅の作の姿ひ

作なるこし
千代の作作者別系ふ作能作者二人作ふ
宗近寸法　粉作　一能宗近十人　能作寸法
下こと作ともなく　宗近と宗近と　一能
宗近助宗宗近　宗近　宗近　宗近　宗近
宗近　能作　能作　能作　能作
一能作　能作　能作　能作
一能作　能作　能作　能作
一

前述の如く毎行経毎十枚之行打ち

経冊寸法　巾七寸九分　一寸九分又一寸八分ヨリ
二寸七分　素の三ヶ所に宗匠打ち

十百韻ヨリ二百韻迄前後経毎一枚ツヽ

附ル

一五文字ハヤヤ切ラントシテ前ノ経句ノ附ヲ

也ヤナラズヤナラズ捨ヤシテハ繁ヒ必ノ

一武道多クトモ　賢ナル　凡人ノ如ク

第庶准シ武　貪ナル　凡人ノ如ク

柳下人武　此二ツハ

ヒトヘニ石定ト一ツ

一第三ハ乃ヒ前句ノ事ヲ抜ヲ

深字ヲ付ルヲ　たとへ

たとへ　きくのと前ハきくヲ

深字ヲ付ルヲ　准シ

乃ヲ付ルヲ　之ノ事ヲ無抜

一菊菜　十二種　ヒロ

蔔　苣　芹　蕨　蕣　葵　蓬　氷蓼

一　水雲　芝萩　士峯

白川流れの雲の中なる御中主神と大根の月の二柱の神とに流れ

一春雪に伊勢

綱引　魚鳥　各しつひすの花に咲て玄宮

春雪と不吟味や　雄略記曰くら乗

雑史源氏にもとの雪の中に

我を世にとる人をとらんすもぬしに海鳥

一馬酔木と書るあせにはけるやあせにを咲

ゆゆしき夏なるを　信濃アセホ

一るの酔木　古事記　夏や

一加冠の儀といふ事あるたとへば元服といふ

今ふる冠をして　蕪村　高貴の儀

一脇　八月朔日　月分　打ちつけ　ちらいて高

ゆゆしの事を主　ゆゆしすべ不及　泥酒　就

なきたれい事でなき　満足　自然

賀の仕様　口受

一中三くけつ紀句ようすし

一櫻の花　畫柳　松竹　冬を待　ゆたく

むすれ　はるの風　はるかに　一段とのきを

おぼろ猫のんこと未練　なれ味ひ及

ぶ細　きうり　後の段句　かわ　そ　て

ふかく　ふ代なと　混る句　多き

一名所の裏一段　句の中を捨　すき

すくすくすくるを　て胃を

却一座　俳諧　毎　板　ふして

こと　俳諧の板　物

一ゆく　ゆく　とえ　ん　と　の　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

一二字　なん　ん　ん　ん　ん　ん

一三字　句の　を　て　め

一三字　加　玉藻　句　と消

一四字　松　風　波

一治字　ハ　の　な　て　句

句切れ歌とは、季吟の源語の句に
自分　青
・・・

待ちて天ふ事ありとぞ

五二四之ことは

橋翻ち知たまへるなく

男女ち旅人の行来高民

二五五三別系北二石四之ちの時民

石ゆく紀ちて千白みてみて

歌の篇序題曲流芳紀諸日ゆる

ちて有之時ふ情ふ深ふ事ちて一く

未詳ちて云ます津ちなと

一三十艇

十艇の内ちて出ちて人家白の色ふ

なるて自紀ちて白小年他のち

いはまに如ちるけふものや

幽玄艇　行雲　廻雪　長高　こぶし　遠石

澄海　有乞　物気　不明　理世　拓氏

至極　蘆艇　存盛　花蘆　雲艇　竹伏

一可能能　秀逸能　後群　写古　面白一興

京曲　濃伝　見物一節　拍鬼強か

附句二体　ヒツトリ（メリツヂテ）　クラベ（ウミダシ）　ヒツかり（ヨソヘ）

右段句歌を附たまへるなるあ

力や歌句を多く知るうの花になるもの

なるを鬼角主人公をてこまも句

なるやうに仕能たるうしろ人公なるを

絵にかれ妙能を示す　能家を記す景感通ふ

書あり

又世秘記及源義傳来書保

元一巻師伝自筆なる伝を

別に二巻一巻と云一巻一巻一巻

奥秘又切紙二巻

切紙巻物巻

系図巻

伝授巻

伝授巻

風書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九